

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390200063		
法人名	有限会社 ラポール新生園		
事業所名	グループホームきずなの郷		
所在地	熊本県八代市古閑下町2225番地		
自己評価作成日	平成24年2月10日	評価結果市町村受理日	平成24年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOまい		
所在地	熊本市馬渡1丁目5番7号		
訪問調査日	平成24年2月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

* 共に生活する中で穏やかで、心豊かな表情が保て自身のペースで思いを伝えながら力の発揮が継続できるように支えていきたい。又体調変化時には、速やかに各医療機関と連携を保ち本人や家族の心身の負担の軽減に努めたい。
 *年4回(年2回事業所全体)の手作り広報誌を地域・家族への発行継続で地域で根ざした支援
 *研修会・レクリエーションへの参加で意識・意欲の向上・充実感へ繋げる環境整備(勤務体制)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設時より地域との関係作りが出来ており、事業所主催の夏祭りや敬老会等家族や地域住民の参加が多く、日常的にも事業所への訪問があり地域に開放された事業所運営がされています。また、事業所で終末期ケアができるよう、医療面の強化を図るため法人で訪問看護ステーションを開設され体制作りに取り組みされている段階です。利用者も職員も開設当初より入れ代わりが少ないため、なじみの関係が深くなっています。日々のケアも細かく把握され、職員の研修意欲も高いようですが、利用者の生活プランに新しい発想を期待したいところです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	: 日々の申し送り時やミーティング等に関りの振り返りとして理念に触れ話し合い、具体的なケアについて意見の統一を図るようにしている。朝、利用者を交えながら理念の唱和を行い、理念の意義を再確認している。	理念は玄関にも掲示されており、5つの視点として、理念を具体化しケアの取組みを行います。理念の意識を深める為の努力をされています。理念に添っていない言動が見られる時にはその都度注意をされています。	理念に添ったケアの継続を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	: 経営者や管理者は事業所と同地区で生活を営み、地域の集会や行事等には職員も参加したり、事業所の行事には、老人会や生き生きサロン・ボランティア慰問の出席もあり、季節の花々等の差し入れもある。	事業所と地域との関係作りが出来ており、事業所主催の餅つきや夏祭りにも地域の住民の参加が多く、高齢者の楽しみにもなっている。また、いきいきサロンの訪問や認知症に対する地域の相談窓口にもなっているようです。	地域住民と事業所が顔見知りの関係作りが出来ているようです。今後もこの関係作りを大切にされると良いでしょう。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	: 地域包括センターの職員と共に研修会の開催や意見交換を行ったり、運営推進会議等で高齢者・地域の方の施設(緊急時等)・職員の活用等の貢献を図りたい旨の提言を行ったり、相談も受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	: 運営推進会議の中での検討・懸案事項(質問・意見・要望・その他)について、その経過を報告し合い又、これまでの評価結果を踏まえ、現在取り組み又予定している内容について報告し意見をもらう様にしている	運営推進会議の参加者から活発な意見があり地域の防災に関して民生委員が利用者を把握されています。また、地域の自主防衛に対しても協力が得られています。また、事業所ゴミの対応等、地域住民としての話し合いがなされています。	運営推進会議の役割が継続され、今後も地域の中の事業所として発展される事を望みます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	: 地域のグループホーム協議会や事業所の運営推進会議・行事にも参加され、運営や課題解決に向け相談や意見・報告・資料等の提供も受け、連携に取り組む時には職員・家族・利用者との交流も図っている。	市町村関係者と事業所との連携は出来ており、問題が発生したときや権利擁護の相談等市役所の長寿支援課に相談する等、日頃からケアマネと担当者間で相談できる関係作りが出来ているようです。	運営推進会議や地域のグループホーム協議会等を通して事業所が抱えている問題について相談されるのも良い機会と考えます。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	: グループホーム協議会・他機関開催の研修会に職員も参加、勉強会・ミーティング等で身体拘束禁止行為の確認と日頃の状態観察等で情報の共有・原因除去を図り、身体拘束に繋がらない様取り組んでいる。	事業所内、外の研修にも積極的に参加され身体拘束をしないケアの実践に取り組まれているようです。また、グループホーム職員心得15ヶ条にも明記されています。日中は施錠をすることなく見守りが行われています。	研修結果が、より高いケアの実践に繋がるよう期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	: 行政・グループホーム協議会・医療機関開催の研修会へ職員も参加、事業所内の勉強会・ミーティングなどで高齢者虐待防止法に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを随時行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	: 事業所内の勉強会や外部研修に職員も随時参加し制度について学ぶ機会を持っている、関係者の情報・意見交換等を勉強し・理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	: 契約時、事業所のケアに関する考え方や取り組み等、退居を含めた対応可能な範囲について説明を行う、利用者・家族の不安等を感じた時は、随時十分な説明を行い理解・納得・同意を得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	: 利用者の言葉・態度からその思いを察する努力をし、家族の訪問時、意見・要望等が言いやすい雰囲気作りに留意し常に問いかけ、運営推進会議・行事への参加時、各家族より伺い、職員共々反映させている。	家族会主催の家族会議で生活環境や物品に関する提案が出され、随時対応がなされているようです。	利用者の言葉や態度、及び家族の訪問時の意見や要望について随時対応されています。今後もサービスの質の向上に向けて継続される事を望みます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	: 月1回の全体会議や勉強会又ミーティングの中で意見・要望を聞くと共に、職員より委員を選出し年に数回の親睦、交流会を設け、必要時は個人面談も行い提案など話しやすい場面・機会を作っている。	職員の離職が少なく、意見や要望を提案出きる関係作りが出来ているようです。勤務要望や物品の請求等職員の要望には対応されています。	全体会議、ミーティング、親睦会等で意見や要望の意見交換ができる仕組みとなっていますが、言い難い意見をくみ取る仕組みも必要かと考えます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	: 「楽しく・やりがいのある職場作り」をモットーに心身共に健康な職場環境の整備や職員の人員確保・希望や無理の無い勤務シフトで意欲や向上心・働き甲斐のある職場作りに努め、資格取得等の支援を図る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同系列事業所への実習で知識や技術の研鑽、研修委員(職員から選出)による県・市・医療機関・認知症部会・他事業所等の研修予定情報の提供や出席案内で研修参加機会確保と意識・意欲・知識向上へ繋げる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	: 八代ブロック連絡協議会主催の管理者・職員の研修、事例検討会・他施設の見学等毎月開催、相互研修・交流会を通じて、他事業所の意見・体験・経験等を参考にしながら、質の向上やケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	: サービス利用について相談があった時は、必ず本人に会って心身の状態や思いに向き合い・受け止めながら、職員も本人に受け入れられるような関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	: これまでの家族の関りの中での苦労や、今までのサービス利用状況等、経緯をゆっくり聞くようにしている。話を聞く事で、家族の困っている事や不安な事等状況を把握し、信頼関係に繋がるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	: 相談時、本人や家族の思い、状況等を確認し、不安なこと・困っていることの改善に向けた支援の提案・相談を繰り返しながら、担当ケアマネジャー等と連携したり、必要に応じて他のサービス機関につなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	: 本人の言葉・態度・行動の中で思いや苦しみ・不安・喜び等知ることに努め、得意分野で力の発揮が出来・好まれる事等を見極め、達成感・満足感に繋がる場面が多くもて共に支えあえる関係づくりに留意している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	: 職員は家族のこれまでの介護の苦しみ、悲しみ等の思いに寄り添い、日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有など家族との情報交換を密にし、家族と同じような思いで支援していることをつたえる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	: 昔から利用されている美容室へ行き、外出時には食事を家族・知人と共にされる。又友人・知人等の訪問でお茶を一緒に飲まれ、笑顔で昔話など談笑される。	昔から地域に住んでいた利用者が多く、旧知の方の訪問や婦人会の方との交流も多い。また、開設者や職員も地域の方が多く開設当時から関係維持が出来ています。	個々の利用者の関係作りが出来ているか、新たな関係作りの必要性等再検討されるのも良いでしょう。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	: 職員は、利用者同士の関係性について情報連携を共有しながら、心身の状態や気分、感情の起伏が日々変化することもあるので、注意深く見守り利用者間関係が円滑になるように働きかけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	:他事業所へ転居された後も家族からの相談に乗ったり、他事業所関係者へその後の状況を伺ったり、必要時は情報の提供等もを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	:日々のかかわりの中で、言葉や表情等から真意を推し測った、確認したりして、一人ひとりの思い・希望・意向の把握に努めている。意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。	日頃の生活の様子や「きずきノート」を活用し、意向の把握に努められています。利用者、職員も入れ替わりが少なく、開設当時から関係作りが出来ているようです。	職員、利用者との古くからの関係から思い込みにならないよう新たなアプローチも必要かと思われます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	:利用前、自宅を訪問したり、本人・家族・関係者等から生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、サービス利用状況・経過等聞き取り、利用後、本人の語りや家族の訪問時、折に触れ少しずつ把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	:一人ひとりの1日の暮らし方や生活のリズム(食事や睡眠、排泄の時間、生活習慣など)を理解すると共に、言・行動や、動作から感じ取り、出来る事・好まれることに注目しその人全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	:利用者やご家族には日頃の関りの中で、思いや意見を聞き反映させるようにしている。又、事業所外の関係者の意見を含めて課題となる事をスタッフ全員で話し、介護計画の作成に反映している。	ケアマネージャーがケアプラン、介護計画を作成。担当者が1ヶ月、3ヶ月毎にモニタリングを行いミーティングで意見交換、情報の共有がなされています。ケアプランから介護計画、モニタリング記録の流れが出来ています。	ケアプランや介護計画を定期的に見直すことで、現状に即したケアの質の向上を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	:個別のケア記録に身体状況(食事・水分量、排泄・他)、日々の暮らしの様子、気づき等を記載し職員間の情報共有徹底を図る為に勤務開始前の確認は義務付け、個別記録を基に介護計画の見直し評価を行う		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	:本人や、家族の状況に応じて、通院同行など必要な支援は柔軟に対応し、他のサービス利用等の情報提供も随時行い、個々の満足度を高めるように努力し負担の軽減を図るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	: 利用者が地域で安心して、豊かな暮らしを続けられる様に、接点を見出し、警察・消防署との連携や老人会・いきいきサロン・ボランティア団体・祭り(妙見祭=神馬・花馬・子供獅子舞)等に協力を呼びかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	: 本人や家族が希望する、それぞれのかかりつけ医で医療を受けられる。通院は家族同行を基本とし、必要時通院同行を行う、訪問診療のケースもあり、資料提供・持参も行う複数の医療機関との連携を蜜にしている	それぞれのかかりつけ医の受診時に日々の状況やバイタルを記入した「きずきノート」を提示し情報提供をされている。また、介護保険更新時にはケアマネージャーも同席し主治医の意見を担当者会議に生かしている。	主治医のコメントを記載できる方法を取る事でより正確な情報の交換が出来ると思います。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	: 介護職員と訪問看護ステーションの看護師とは、気軽に相談できる関係が出来ており、看護師と提携医療機関との連携も蜜に取れる体制が確保されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	: 日頃より、医療機関とは通院同行や状態報告・相談・指示を受け、状態の悪化防止の支援に努め、入院時は支援状況・服薬関係資料、情報を提供、退院時は回復状況等を見舞い時関係者に伺い、家族とも情報交換しながら、速やかな退院支援に繋がっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	: 本人の気持ちを大切に、事業所が対応できる最大のケア説明と、家族と話し合い利用者が安心して終末期を過せるように取り組み、状態観察・情報の共有を職員間で図り、急変や体調変化時に医療機関へ連絡し迅速に対応・指示受けれる連携確保。	法人設立による訪問看護ステーションを開設した事により今後の重症化、終末期に対する体制作りが出来つつあります。このことにより見取りへの対応が可能となり、看取りに向けての職員研修を予定されています。	終末期も安心して過ごせる事業所としての取組みに期待いたします。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	: 講習会や研修会に参加したり、事業所内の勉強会の中で急変・事故発生時に慌てず迅速に応急手当・初期対応等の実践力が身に付くよう取り組み、医療等の資料を基に日頃の気づきの重要性も再確認にする。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	: 防災、消防訓練を消防署と連携を図り、隣接の事業所と合同で行う。決定時間内の火の使用・非難手順・場所再確認へと繋げ又、運営推進会議の中でも情報の提供をして、地域の協力が築けるようにしている。	法人合同で年2回の消防訓練の実施しており地域との協力関係も出来ているようです。	避難後の安全確保も検討されると良いでしょう。また、情報網の発達に伴い一斉メール配信も可能かと考えられます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	: 研修会等に参加や事業所内勉強会・申し送り時等の折りに、職員の意識向上や徹底を図ると共に、日々の関りの中で、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや行動をしているか確認している。	排泄、入浴時ケアには同姓介護が必要と感じた時にはその都度対応されています。居室のドアは小さな窓ガラスになっており外から部屋の様子や安否確認できるようになっていますが、希望によりカーテンを使用されています。	事業所内の勉強会や研修参加を継続され利用者の尊厳が守られる事を望みます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	: 職員は利用者とは過す時間を通して、希望・関心・嗜好を見極め、それを基に意思決定が出来る場面作りを心がけ、又意思表示が困難な方には、表情や言・行動の小さな動きなどを読み取るようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	: 基本的な一日の流れは持っていますが、一人ひとりの体調に配慮しながらこえかけを行い、その時の本人の気持ちを尊重し、本人のペースにそって、見守りながら柔軟に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	: 個々の生活習慣に合わせた支援、行事や外出予定時等化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。以前より行きつけの美容室へ定期的に行かれ、他者は2ヶ月に1回訪問理・美容でさっぱりされます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	: 無理のない姿勢で出来る範囲で、個々の力が発揮できるおやつ作りや食材の下ごしらえ、食前食後の台拭き準備・後片付け、季節の手軽な漬物なども一緒に作成し、家族にも食べていただき大好評でした。	利用者の好みを献立に生かされています。利用者と共におやつ作りをされたり、全員で梅干やカリカリ梅、梅みそを作り家族に試食をして頂く等食を通じて家族の楽しみや繋がりを深められています。	利用者や家族等の力と知恵を学びながら職員、利用者、家族等と一緒に物作りができることは精神の活性化につながります。今後も継続され生活の質の向上を望みます。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	: 個々に応じた食事・水分量確保が必要か主治医へ伺い、無理なく栄養バランスが摂れる食事や水分量確保できるよう記録に残し、食事形態も体調・力・状態に応じた支援で、好みの飲み物等を準備し提供する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	: 毎食後、口腔ケアの声かけ・誘導・力に応じた(義歯)歯磨き支援等個別に行い、夜間帯は義歯を預かり、洗浄・起床時緑茶うがい対応を厳守している。又、以前より治療継続をされる、訪問歯科診療支援もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	: 個々の排泄チェック表で時間・習慣等の排泄パターンを把握し、又朝・夕の交代時体調・状態変化等の申し送りをする。尿意のない利用者には様子や時間を見計らい誘導し、トイレで排泄出来るよう支援する。	状況に応じて布パンツに変更する等の対応がなされています。時間的にトイレ誘導をし失敗が多くなった利用者に対して薬の調整や健康状態の変化について主治医と相談する等細かい配慮がなされています。	排泄チェック表や利用者の表情等に考慮しながらタイミング良く排泄誘導がなされ快適な環境で日常が生活が送られる事を望みます。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	: 個々の排泄パターンをチェック表等を利用して把握しながら、繊維質の多い食材や乳製品を取り入れ、水分量の確保・散歩、家事活動等身体を動かす機会を適度に設け、自然排便できるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	: 入浴の声かけ・確認(時間を置いて再度声かけ)を行い、毎日入浴・一番風呂・湯加減等々、利用者の好みを聞き、希望に添った入浴が出来るように心掛けている。目安として、事前にバイタルチェック施行する。	日勤帯を中心に利用者の希望に応じてられます。入浴を拒否される方には時間を変えたり、スタッフを変えたりしながら対応されています。ゆず湯、菖蒲湯も行い、若き日の思いを楽しまれているようです。	一人ひとりの意向に添いながら個別入浴がなされています。本人の生活習慣に合わせた入浴も検討される必要があるかと考えられます。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	: 家事活動等を促し、生活リズムを整え一人ひとりの体調や表情・希望等考慮し、室温・湿度を体調や季節に応じて調節し入眠しやすい環境づくりをする。休息は、本人希望の自室・和室・フロアにて過ごされる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	: 勉強会で一人ひとりの服薬表配布や変更・増減時随時申し送り、又連絡ノートに記載し処方箋も貼付して(効能・備考)注意点等の情報共有を図り、状態や症状観察を行うようにし気づきにつなげている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	: 得意分野で一人ひとりの力を発揮して貰える様、無理なく、楽しみながら出来る仕事をお願いし、利用者の経験・知恵が発揮できる場面を作り・気分転換を図ったり、一緒に行い感謝の言葉を伝えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	: 天気、本人の気分や体調などに応じて、日常的に散歩・買い物あるいは、ドライブにて戸外へ出かけられる。季節行事や四季(街並み)の移り変わり等を体感していただくように外出支援を行い、時には出先で家族と待ち合わせてし一緒に過してもらおう。	天気のよい日は利用者全員がほぼ毎日事業所週辺を散歩したり外でお茶を飲みながら、移り行く景色を楽しまれています。散歩をしながら近所の人と挨拶を交わしたり、話をしする等の近所付き合いが日常的になっています。	5分でも10分でも外気浴を行う事は気分転換に繋がりとでも大切な事と考えられます。身体状況に問題がない利用者については、歩行ができる、できないに関わらず楽しみながら外気浴継続を望みます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	: 本人の希望や家族の協力で小額のお金を持っておられる方もあります。社会変化の気づきや気分転換等を兼ね、ショッピングや公園・神社、仏閣等の外出時、賽銭箱や飲み物代等動きの可能な方が代行される。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	: 毎年、年賀状と暑中見舞いの葉書を出す為の支援を欠かさず行うと共に、電話での会話も利用者の状態を見ながら、居室より家族へ電話をかけ、ゆっくり会話が出来・声を聞かれ安心に繋がる様に支援をする。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	: 生活の中心であるフロアからは、中庭の季節の花々・野草・光、道路を走る車・人等の景色が見える。厨房は、料理やご飯の炊ける匂いが楽しめ、窓から季節の風や日光を浴びての日向ぼっこ、思い々の場所で生活感・季節感を楽しんで頂ける工夫をする。	玄関は吹き抜けになっており、フロアにはソファや畳のスペースがあり、個人の好む場所で寛げるよう配慮されています。また、中庭には季節の花々が眺められるよう工夫されています。リビングには厨房もあり五感の刺激もあるようです。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	: フロアのソファで一人でゆっくりくつろがれ又、窓辺で景色を眺め日光浴をされたり、和室の上がり框に数人で腰掛話をされる等、利用者個々の状態や相性等を考慮して、思い々に過ごせる居場所作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	: 以前、自宅で使用されていた家具・寝具・日用品・写真・小物など、使い慣れた好みの物・大切な物を家族と相談しながら、利用者が居心地良く過ごせるように配慮している。	入居前の自宅での生活状況を聞き取り、必要に応じて個々に合った生活居室の配慮がなされています。ベッドや畳みの位置も本人の好みに合わせ、好みの家具の持ち込みにも対応されています。	一人ひとりが安心して落ち着き生活できる環境作りの継続を望みます。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	: 今、出来ている事が継続していける様又、状態が変わり新たな混乱等が生じた場合でも、その都度職員一同・家族とも話し合い本人の不安材料を取り除き、力を取り戻せるよう状況に合わせた環境作りをしている。		